



【ARIによる詳細検討】
 作成した3Dデータを仮想的に現地にアウトプットし、建物の見え方や実際の高さ、軒廻りの細部を検討。
 スマートフォンとGPSを利用することで、拡張空間上に建物を出現させる技術を応用。
 拡張空間上で建物の内部に入り詳細部の検討をしたり、壁内部などの完成後では不可視となる部分を見ることができる。
 この技術が最も効果を発揮したのは、建物が小さいために枯木尻を小屋組内にどのように納めるかという検討を行なった際である。